

3月例会は「春との旅」

2011年度総会は4月26日

運営状況と10周年事業など今後の予定

最近、日本映画をはじめとして見ごたえのある良い作品が増えています。しかし、加古川シネマクラブでは、会員数が少ないところで停滞しているため、会費収入も伸びず、できる範囲で例会の開催や映画関係事業の協力を行っているのが現状です。

例会の経費については、DVDやブルーレイの普及で、今まで大がかりな35ミリフィルムでしか上映できなかった作品も、配給会社から少し割安な経費で入手できるものが増え、少し助かっています。

このような中で10周年を迎えたわけですが、前回のニュースで、今夏に『レオニー』の上映会を計画していることを伝えましたが、この地域で同時期にこの作品の規模の大きい上映会の計画があるため、10周年上映会の作品を『ふたたび』に変更することになりそうです。

その他、10周年記念事業の案を検討しているのですが、この会の運営経費に全く余裕が無いので、規模の大きいことはできない状況です。

幸いにして、例会作品では、今回の『春との旅』、その次の『冬の小鳥』、さらに、それ以降も候補作品に恵まれています。

新年度を迎え、映画に興味のある人にこの会のことを伝えるなど、今後とも協力お願いします。

例会のお知らせ

■名称／第53回例会『春との旅』

■日時／3月17日(木) ① PM 1:30～、② PM 3:55～、③ PM 6:20～(長時間映画のため、いつもと開始時間が異なるのでご注意ください)

■場所／加古川総合文化センター大会議室(JR 東加古川駅から北へ徒歩10分、車は加古川バイパス加古川東ランプ北へすぐ)

■受付／入会手続きが終わっている方は、受付に同封の「例会参加券」をお渡しください。

入会手続きを行っていない方は、受付で4箇月分の会費(2000円)を支払い、入会手続きを終えてから、「例会参加券」をお受取りください。

【例会作品データ】

■タイトル／春との旅

■監督／小林政広

■出演／仲代達矢、徳永えり、大滝秀治、菅井きん、小林薫、田中裕子、淡島千景、長尾奈奈、柄本明、美保純、戸田菜穂、香川照之

■データ／2009年、日本、カラー、2時間14分、ドラマ／ヒューマン、ブルーレイ



「春との旅」チラシ

■解説

北海道から東北・宮城へー

疎遠にしていた家族をめぐる旅のゆくえ。

ある日、突然ー

ひとりの老人が家を捨てた。

孫娘春が、あとを追った。

旅の始まりは、まだ寒い北海道の四月、かつてニシン漁に沸き、今ではその面影すら留めない北海道・増毛の寂れた海辺。そこのあばら家で老漁師・忠男と孫娘・春は、つましい生活を続けていた。しかし、時の流れとともに二人の暮らしは行き詰ることになる。

ー 行く先々で二人を待ち受ける現実には、現代社会の諸問題の余波が及ぶ苦しいものがあった。それぞれの家庭の事情と、北海の漁師として一途に生きてきた忠男への肉親たちの愛憎と葛藤。そして、心と心の隔たりと通い合いー 互いの勝手と情とのあいだで、思いがけない激しい感情が交錯しぶつかり合うのだった。

そうした祖父と肉親たちの再会を目の当たりにした春は、これまで長く離別していた父親に会いたい思いに駆られる。そして忠男と共に、北海道・静内の後妻と暮らす父の牧場へ向かったー。(公式サイトから部分抜粋)

『バッシング』『歩く、人』の小林政広監督が書いた原作を、自ら映画化した感動ドラマ。

身の拠り所を求めて疎遠の親類縁者を訪ねる旅に出た老漁師と孫娘が、次々と再会を経る中で浮き彫りになる過去の事実や確執に否応なく向き合っていく姿とその人間模様をリアリスティックに描く。主演は『白い犬とワルツを』の仲代達矢と『アキレスと亀』の徳永えり。

豪華キャストの競演も注目するところである。

加古川シネマクラブ「2010年ベストテン」

日本アカデミー賞、本場アメリカのアカデミー賞と、2010年の映画賞が出そう中、加古川シネマクラブでも昨年度に引き続き、会員が選ぶ年間映画ベストテンを選定しましたので、下表のとおりベストテンを報告します。

順位	作品名 (邦画)	得点
1	おとうと	28
2	レオニー	18
3	悪人	18
4	武士の家計簿	15
5	RAILWAYS	10
6	借りぐらしのアリエッティ	10
7	最後の忠臣蔵	8
8	春との旅	8
9	告白	7
10	氷雪の門	5

順位	作品名 (洋画)	得点
1	牛の鈴音	32
2	カティンの森	10
3	フローズン・リバー	9
4	クロッシング	7
5	彼女が消えた浜辺	5
5	ハリーポッター死の秘宝 Part1	5
5	パリ 20 区、僕たちのクラス	5
5	胡同の理髪師	5
5	瞳の奥の秘密	5
5	ひとりで生きる	5
5	約束のブドウ畑	5

1月例会を中心に投票をお願いしたところ、13人から邦画31作品、洋画36作品の投票がありました。集計方法は、1位5点、2位4点、3位3点、4位2点、5位1点の配点で、得点合計順として、同点の場合は、順位の高い票がある方を上位にしました。

投票人数が13人とたいへん少なかったのは残念ですが、加古川シネマクラブが選んだ2010年の年間映画ベストテンとして発表します。

定例総会開催のお知らせ

加古川シネマクラブでは、2011年度の定例総会を下記のとおり開催いたします。1年間の基本活動を決定する会議ですので、会員の皆さまには、ご出席いただきますようお願いいたします。

- 1 名称 2011年度加古川シネマクラブ定例総会
- 2 日時 4月26日(火)午後7時から(約1時間)
- 3 場所 加古川総合文化センター会議室1
- 4 内容 2010年度事業報告に関する事
2010年度決算に関する事
2011年度役員を選任に関する事
2011年度事業計画に関する事

2011年度予算に関する事

5 参加方法 直接会場にお集まりください。

6 その他 当日に出席できない方は、委任状(書面であれば形式を問いません)を提出することによって、出席する会員に議決等を委任することができます。

また、当日、5月例会発送作業も行いますので、作業を手伝ってくださる人は、午後6時30分にお集まりください。

前回例会の報告

1月26日の例会では、『オーケストラ!』を鑑賞しました。参加会員119人。

タイトルから芸術性溢れる固い作品をイメージしていた人も多いと思いますが、権威、芸術、戦争、宗教、国民性などをチクッとユーモアで刺激しながら、親子愛や友情を主題として展開していくなど、フランス映画の中でも素直な秀逸な作品でした。参加者からの感想も「良かった」というものばかりでした。

その他の報告

2月15日(火)に、加古川総合文化センターで、兵庫県映画センター主催の『RAILWAYS』上映会に協力しました。観覧者約170人とかなり少なかったのは残念でした。

「10周年」について雑記

一昨年8月23日の『火垂るの墓』上映会が、7周年記念上映会だったのに、今年が10周年なの?と気になっている人がいるかもしれません。

加古川シネマクラブは、2002年5月22日の設立総会で発足し、同年7月16日の第1回から実質的な事業を展開しています。

何周年と言うのは、正しくは、その基準日の前の1年間を意味します。今まで、2007年8月18日に開催した『フラガール』上映会を5周年記念事業とするなど、基準日の頃に開催していた事業を何周年としてきました。『フラガール』上映会の場合、5周年を3か月過ぎてることになるなど、堅苦しくいうと間違っていました。

そういうことで、加古川シネマクラブ10周年記念事業とするのは、2011年5月23日から2012年5月22日までで開催するものとしました。弁解かたがた説明まで。

ご意見をお待ちしています

映画の感想や意見など、このニュースへ記事をお寄せください。200~300字程度にまとめていただければ助かります。おすすめ作品をファックス、メールや例会会場のアンケート用紙でお知らせください。

加古川シネマクラブ 〒675-0101

加古川市平岡町新在家 752-46 B-313 山本方

TEL 090-9283-0435 FAX 078-935-8528

E-MAIL cinemaclub@nifty.com

http://homepage3.nifty.com/cinemaclub

会員数 169人(1月25日現在)